

事故周知・再発防止〔令和5年度発生事例〕

災害の種類	物損事故	工事区分	〇〇工事	
事故内容	ケーシングチューブ打設時に水道管を破損	被災者	性別・年齢	なし
被災状況	下水道管の破損		職業	なし

〔災害の概要〕

□現場の状況：

胸壁工(ケーシングチューブ打設作業)

□事故の概要：令和5年10月27日(金) 9:00

ケーシングチューブを打ち込んだ際、下水道管(H19敷設、ステンレス管、φ100)を破損。

なお、施工前の管理者との立会で試掘調査の指示を受け、試掘で既設護岸の吸出し防止材が現れ、受注者が埋設管はないと判断した。

□安全対策の有無：有

埋設物調査：上・下水道管理者及び受発注者で立会を実施

試掘調査：受注者のみで実施

〔再発防止策〕

□問題点：

①埋設物確認の誤り

試掘で既設護岸の吸出し防止材が現れ、これより深い位置では吸出しの影響を受け、管が適切な状態を保持できないことから、吸出し防止材より深い位置での管の敷設がないと判断した。(管理者と発注者には立会い依頼せず)

□防止対策：

①埋設物確認の徹底

1 広範囲の試掘調査

敷設物の位置が確実に確認できるまで工事範囲を広域に試掘調査する。

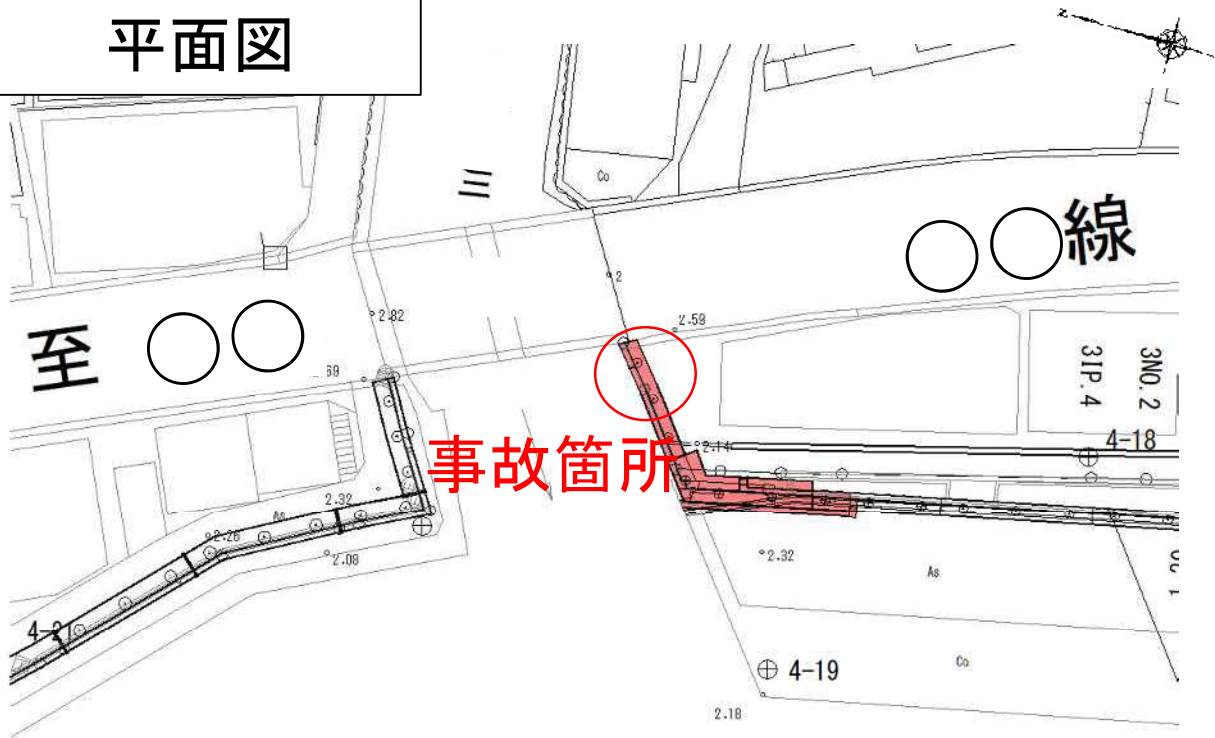
2 地中レーダー探査活用を検討

上記1を実施した上でも埋設物が確認できない場合は、必要に応じ、地中レーダー探査機による探査の活用などを検討する。

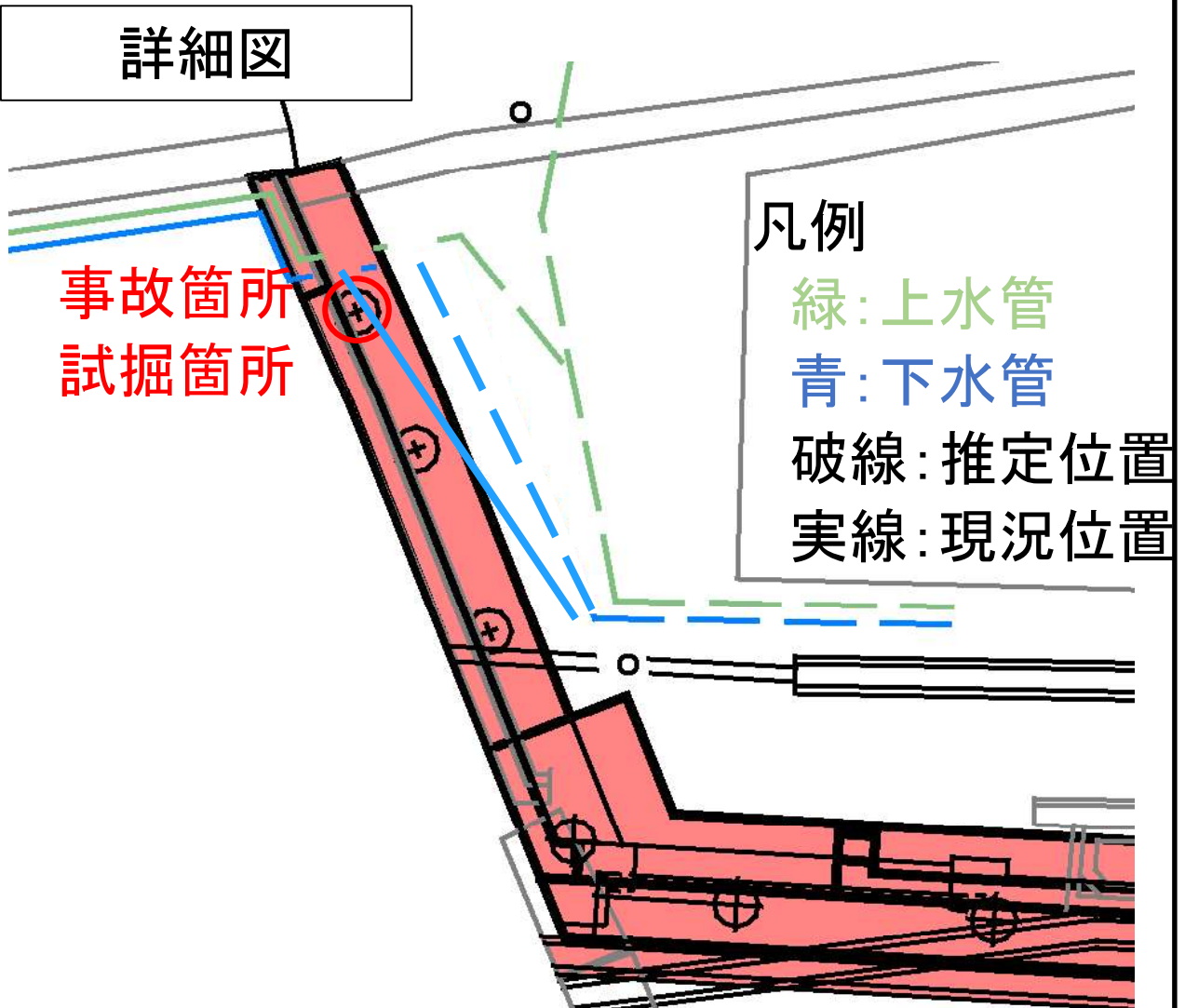
3 試掘結果の立会

埋設物が確認できない場合は、管理者と発注者に立会を求め、判断を仰ぐ。

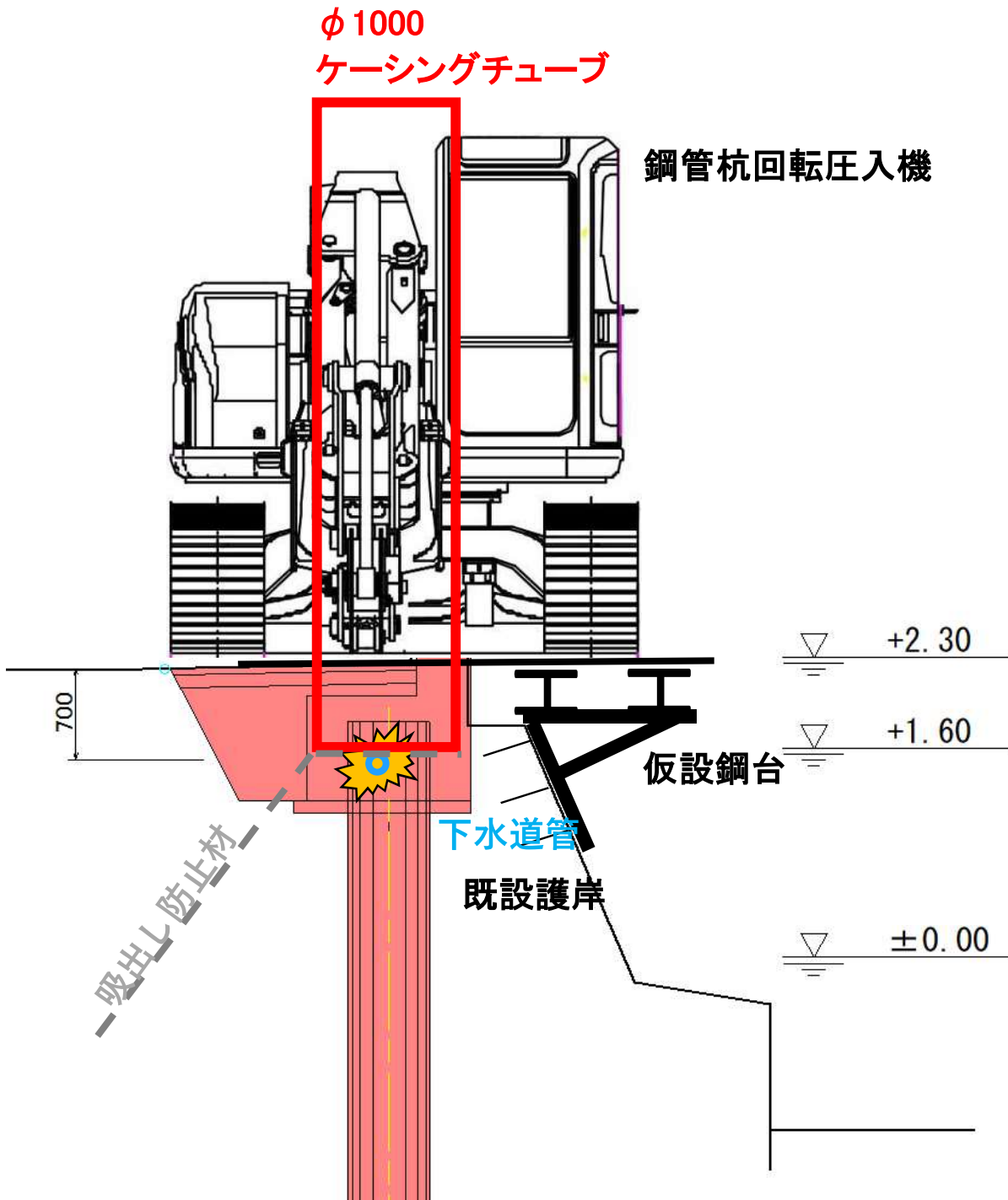
平面図



詳細図



横断図



問題点

- ・埋設物の正確な位置が確認できず、経験則から埋設物がないと判断した。

事故現場全景



破損状況



ケーシングチューブ引き抜き後



破損した下水管



下流側



上流側

試掘調査状況

ケーシング
チューブ施工位置



掘削箇所拡大



既設護岸の吸出し防止材が現れたため、埋設物はないと誤った判断をした。